

「話す」「聞く」どちらが先でしょうか？

校長 白澤 道夫

当校では、毎月の「全校・生活朝会」で校長が児童に話す（講話）場面があります。

今年度「ことばまみれ」を目指す当校では、全校・生活朝会であっても単に校長が一方的に話をするのではなく、テーマを提示して、児童個々で考え、話し合い、再考しながら任意の内容について、全校（児童と職員）で共通理解を図っています。

今回は「話す」「聞く」の順番について、標記のテーマを提示しました。

すると、子どもたちからたくさんの意見が出てきました。

「『聞く』が先だと思います。聞かないと何をしたらよいか分かりません。」

「『話す』が先のこともあると思います。自分から話さないと相手の考えが分かりません。」等々。1年生から6年生まで、みんな生き生きと自分の考えを発表していました。

着実に一歩ずつ、言葉力が高まっていることを実感した場面でした。

さて、実際のところ、「話す」「聞く」は、場面によってその順番が変わります。

「学習の場面では『聞く』『話す』の順番が多いと思います。でも誰かに相談したり、お願いしたりする時には『話す』『聞く』の順番になることが多いと思います。」

個々の意見の発表後、私がこう切り出すと、みんなうなずく等、納得していたようです。

私たちは、TPO（時、場所、状況）に応じて、「話す」「聞く」を使い分ける必要があります。つまり人は、個々の目的に応じて、判断して、言葉を用いているのです。

授業等では、児童が発言している途中に、他の児童が意見を割り込ませてしまう場面を見かけます。「（相手の発言を聞いて、質問したいこと等を）話したい気持ち」は認めつつも、話している側にとっては決して心地よいものではないことに気付いてほしいです。

今、目の前の場面で、自身は「話す」「聞く」のどちらの立場なのか。

子どもだけではなく、大人（私自身も含めて）も自覚していくべきことだと思います。

「国語力が身につく教室」（明治大学教授 齊藤 孝 著）には、「相手のコミュニケーションの力」を見極める際に下記の4点が「力の低い人」として示されています。

- | | |
|------------------|---------------|
| ① 質問をあまりしない | ② 人の話を途中でさえぎる |
| ③ 自分の（得意な）話ばかりする | ④ 相手の言葉を無視する |

その上で、「相手の使った言葉を自分の中にうまく取り入れて会話に生かす」ことがコミュニケーションの力を格段に引き上げると記しています。

コロナ禍への見通しが見えてきた現在、あらためてコミュニケーションの大切さを「話す」「聞く」から見直していくことが求められていると感じています。